

令和 元年 10 月 1 日現在

機関番号：26401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2013～2014

課題番号：25893211

研究課題名（和文）小児がんの青年が親と医療者とともに行う意思決定への看護実践ガイドラインの開発

研究課題名（英文）Development of nursing practice guidelines for shared decision making by the adolescent with with hematological and oncological disorders

研究代表者

有田 直子 (Arita, Naoko)

高知県立大学・看護学部・講師

研究者番号：70294238

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、血液・腫瘍疾患をもつ青年が親と医療者とともに行う意思決定の看護実践ガイドラインを開発した。本研究は、Shared Decision Making (SDM) の概念を参考にした。看護実践には、【SDMにおける看護師の基盤】【SDMにおける相互作用を促進するかかわり】【SDMにおける青年と親と看護師の距離感を確保するかかわり】【SDMのプロセスを支持・保障するかかわり】【SDMにおける自立・自律と保護のバランスをとる】【SDMにおける青年の移行を促すかかわり】【親子のSDMを支えるチームにおける支援体制の整備】が含まれた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

青年のSDMを実現していく上では、これらの看護実践を組み合わせることで、看護師の知識に基づいた高い実践力が求められる。看護実践ガイドラインを活用することによって、倫理的判断を基盤とした青年への意思決定支援を看護師が実践することができると考える。今後はガイドラインを活用する実践場面の特定や、青年のSDMを支援するためのコンピテンシーを看護師が獲得できるような教育プログラムの開発が必要であると考えた。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to develop nursing practice guidelines for decision making by adolescents with hematological and oncological disorders achieved in collaboration with parents and health care practitioners. Referring to the concept of Shared Decision Making (SDM). The following seven items were included in the “Nursing practice guidelines for decision making by adolescents with hematological and oncological disorders achieved in collaboration with parents and health care practitioners”: [nurse’s foundation in SDM], [involvement to promote interaction in SDM], [involvement to maintain a sense of distance between the adolescent, parents, and nurses in SDM], [involvement to support and guarantee processes of SDM], [balancing independence with autonomy and protection in SDM], [involvement to encourage transition from adolescence to adulthood in SDM], and [development of a team-based support system for child/parent SDM].

研究分野：小児看護学

キーワード：小児がん SDM 青年 ガイドライン

1. 研究開始当初の背景

1) 学術的背景

小児がんの患者と家族が安心して適切な医療やケアを受けられる環境を整備することを目指し、2013年には厚生労働省の「小児がん拠点病院の指定に関する検討会」において、15の医療機関を「小児がん拠点病院」として選定した。小児がんの子どもの治療とケアにおいては、退院後、子どもの将来を見据えた視点が重要であり、小児がんの子どもが退院後の長期の生活を築いくための支援が重要課題であった。

欧米では Shared Decision Making(以下 SDM とする)のアプローチが推奨されており、子どもが決定に参加することを促すケアの重要性が強調されている。Crickardら(2010)が、SDMにおける青年と親と医療者と3者の関係性についての研究を行い、それぞれがエキスパートとしての役割があると述べていた。SDMにおける3者の役割を強調しており、子どもが意思決定に参加することを可能にする、親の役割の重要性についても述べていた。

2) SDMの概念の小児看護への活用

「青年が親と医療者とともに意思決定」の現象を捉える上では、「Shared Decision Making」の概念が参考になるのではないかと考え、Walker & Avant(2008)の概念分析の手法を参考に、SDMの概念分析を行った。また、小児におけるSDMについての論文から、小児看護においてSDMを実践や研究に活用する上での有用性を検討し、子どもが親と医療者とともにSDMに取り組む上で考慮する視点を導き出すことができた。

3) 先行研究の結果

本研究による、血液・腫瘍疾患を持つ青年の意思決定に関する先行研究では、小児看護専門看護師にインタビューを行い、質的分析を行った。その結果、小児看護専門看護師が親子の相互作用を捉えた上で、親子に寄り添い親子に応じたSDMの支援を行っていることが明らかになった。

以上のことから、青年と親と医療者の3者間のコミュニケーションを促進するための看護実践や、青年が主体となり意思決定を行うための看護実践の開発が必要であると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、先行研究からの発展的研究であり、青年の意思決定の参加を支援する看護実践ガイドラインを開発することである。

3. 研究の方法

1) 「青年が親や医療者とともに意思決定を支援する看護実践」の定義

今までの研究結果を踏まえ、本ガイドラインにおける「青年が親や医療者とともに意思決定を支援する看護実践」とは、「青年が親や医療者との関係性を築き、青年と看護師との2者関係における相互作用、親子と看護師の3者関係における相互作用を通して行われる意思決定を支援する看護実践である」と定義した。

意思決定を支援する看護実践」とは、「青年が親や医療者との関係性を築き、青年と看護師との2者関係における相互作用、親子と看護師の3者関係における相互作用を通して行われる意思決定を支援する看護実践である」と定義した。

2) 血液・腫瘍疾患を持つ青年が親と医療者とともに意思決定を支援する看護実践ガイドラインの開発過程

(1) 第一段階：小児看護専門看護師へのインタビューデータの分析による血液・腫瘍疾患を持つ青年のSDMを支える看護実践の抽出
(2) 第二段階：血液・腫瘍疾患を持つ青年の自立支援や移行支援における課題と看護実践の明確化

(3) 第三段階：血液・腫瘍疾患を持つ青年が親や医療者とともに意思決定を支援する看護実践ガイドラインの枠組みの作成と看護実践に含まれる内容の検討

血液・腫瘍疾患を持つ青年のSDMの先行研究結果からも検討を加え、統合することで『血液・腫瘍疾患を持つ青年が親と医療者とともに意思決定を支援する看護実践ガイドライン』を完成させた。

3) 倫理的配慮

本研究は高知県立大学研究倫理審査委員会(看研倫 13-55号)の承認を得て実施した。小児看護専門看護師のインタビューデータやヒアリングデータは、了解を得たうえでI・Cレコーダーに録音した後、個人が特定されないようプライバシーを保護したうえで、逐語録とした。

4. 研究成果

看護実践ガイドライン開発過程の第一段階から第三段階のプロセスに沿って、分析結果を報告する。

1) 血液・腫瘍疾患を持つ青年のSDMを支える小児看護専門看護師の実践の抽出

青年のSDMを支援する小児看護専門看護師の実践として、「青年と親各々に敬意を払う」「親子間の感覚の共有」「親子と看護師との距離感の調整」「青年と親がとっている決定のバランスへの配慮」「青年が親とともに迎える決定のプロセスの見定めと支持」「親子の折り合いをつける」の6つの側面が抽出された。これらの6つの側面は、「血液・腫瘍疾患を持つ青年が親や医療者とともに意思決定を支援する看護実践ガイドライン」の内容に含んだ。

2) 小児看護専門看護師が捉えた血液・腫瘍疾患を持つ青年の自立支援や移行支援における課題と看護実践の明確化

小児看護専門看護師は血液・腫瘍疾患を持つ青年の自立支援・移行支援における課題として、「青年は自分への問いかけがないために将来や治療体験を話すきっかけがない」

「病気の管理を子どもにいつ移行していけば良いのかわからない親の不確かさと移行計画を青年自身で立てることの難しさ」「青年が治療後の自分の状況にうまく付き合っていくことの難しさ」「青年が抱えている治療後の心理的・社会的な問題の家族生活への影響」「移行期にある青年期特有の重要な課題を支援する体制を築く難しさ」の5つを捉えていることが整理できた。

3) 血液・腫瘍疾患を持つ青年が親と医療者とともに意思決定を支援する看護実践ガイドラインの作成

(1) 『血液・腫瘍疾患を持つ青年が親や医療者とともに意思決定を支援する看護実践ガイドライン』の枠組み

看護実践ガイドラインの枠組みとして、【SDMにおける看護師の基盤】【SDMにおける相互作用を促進するかかわり】【SDMにおける青年と親と看護師の距離感を確保するかかわり】【SDMのプロセスを支持・保障するかかわり】【SDMにおける青年の自立・自律と保護のバランスをとるかかわり】【SDMにおける青年への責任の移行を促すかかわり】【親子のSDMを支えるチームにおける支援体制の整備】の7項目を抽出した。看護実践ガイドラインは、抽出された項目ごとに看護実践の内容を列挙した。

(2) 『血液・腫瘍疾患を持つ青年が親や医療者とともに意思決定を支援する看護実践ガイドライン』の看護実践内容

【SDMにおける看護師の基盤】とは、青年の意思決定を支える看護実践を行う上で看護師が、青年と親各々に敬意を払い、青年、親のそれぞれに向き合って個の人格として尊重してかかわるといふ姿勢である。

【SDMにおける相互作用を促進するかかわり】とは、青年が親と医療者の3者の螺旋の中で折り合うところを見つけられるよう、青年の意向と親の意向を確認しながら親子をつなぎ青年が決定を行えるよう調整していく看護師の実践である。この実践は看護師が、青年と親それぞれの考えや価値を理解、共有し、青年が選択を行う際に親子でどのような相互作用があったのかを捉えていくためのコミュニケーション能力を必要とする。

【SDMにおける青年と親と看護師の距離感を確保するかかわり】とは、青年が看護師に望む距離感、親が安心する看護師との距離感、親子の間の距離感を捉え、青年のSDMを支援する看護実践である。

【SDMのプロセスを支持・保障するかかわり】とは、青年が主体的に決めようと試みている過程に沿い、必要時には医療者の力を活用して先を見通した決定を実行できるよう支持していく看護実践である。この実践は看護師が、青年の力を信頼し、青年が辿っているSDMの流れと一緒に乗り保障することや、青年が視野を広げて決定のプロセスを進むことができるよう支援する力を必要とする。

【SDMにおける青年の自立・自律と保護のバランスをとるかかわり】とは、青年の意思決定における行動は青年の力に相応したものを極め、親の立場を重んじ、家族内の調整力を踏まえて青年の意思決定への介入を見極めていく看護実践である。この実践は看護師が、青年の葛藤、親の葛藤を理解し、青年ひとりひとりのセルフケア能力や自己効力感に合わせてかかわっていく力を必要とする。

【SDMにおける青年への責任の移行を促すかかわり】とは、青年が自分の身体のことや将来のことを、主体的に考えていこうとしているタイミングを捉え、看護師が今までの治療で起こったことを一緒に振り、未来に向かう青年の決定を支えていく看護実践である。

【親子のSDMを支えるチームにおける支援体制の整備】とは、青年の意思決定を多職種が連携・協働して実践していくことができるよう、看護師が調整役となり組織の体制を整えていく看護実践である。看護師はチームで青年のSDMを支持する実践を行うことを意識し、青年と親が退院後も長期にわたって相談できる環境を整えていく力も必要とする。

4) 今後の課題

今後はこれらを活用する実践場面の特定や、青年のSDMを支援するためのコンピテンシーを看護師が獲得できるような教育プログラムの開発が必要となる。また、看護実践ガイドラインを活用し評価していくことで、洗練化していき、活用可能性の高いガイドラインとなるよう取り組んでいくことが必要である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1件)

有田直子,中野綾美(2019):血液・腫瘍疾患をもつ青年が親や医療者とともに意思決定を支援する看護実践ガイドラインの開発.高知女子大学看護学会誌,44(2),44-55.

〔学会発表〕(計 0件)

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

有田 直子 (NAOKO ARITA)
高知県立大学看護学部・講師
研究者番号：70294238

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：